

基盤整備等における先進的技術の導入が叶える集落ぐるみの営農

～ 農事組合法人 ^{ささもと} 篠本営農組合（千葉県山武郡横芝光町）～

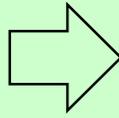
経営体の概要

組合設立時：平成23年度

(H23. 2月設立)

基幹作物：水稻（主食用米）

経営面積：36.7ha



現在：令和元年度

基幹作物：水稻（主食用米、古代米）、麦、

大豆、ねぎ、落花生、たまねぎ等

経営面積：51ha

取組の経緯と経営転換のポイント等

関連事業のほ場整備事業の着手を契機に、地域の稲作を兼業農家による個別経営から転換するとして、3集落をまとめ基盤整備しそれぞれの集落の周辺に集約、平成22年度に集落ごと3つの営農組合を設立したうちの1つが本営農組合である。

本営農組合が整備された集落の農地を担うことで農地の利用集積が進み、平成26年度完了の国営かんがい排水事業等で管路化され安定的な用水による計画的栽培のもとで効率的な作業を実施している。

関連事業のほ場整備事業により大区画化や排水性の改善による汎用化が図られたことで、設立当初から本営農組合が自律走行型コンバイン等の大型機械を導入し、水稻の作業時間を大幅に短縮、さらに、地下水位制御システム（FOEAS）の導入により、地下水位を管理することで、水稻栽培時の水管理の省力化や、水田の畑利用に繋がっている。

営農改善のポイント

① 省力化

関連事業のほ場整備事業によりほ場の大区画化、汎用化が図られ、大型機械の導入が可能となったことで、その導入と併せて農地の計画的利用集積とともに、水稻の乾田直播による作業の効率化も進め、水稻の作業時間を、設立当初10a当たり約35時間から、現在約24時間までと3割以上を削減している。また、本営農組合で水稻作業等を行うことで、個々の農家の機械投資の負担軽減や、耕作放棄地の発生を未然に防いでいる。

管路化やFOEAS導入により水管理作業の省力化が図られており、水田畑利用により麦・大豆のブロックローテーションの他、ねぎ、落花生などの高収益作物の導入に取り組むほ場は、連作障害回避のため水田に戻す工夫をするなど、生産の安定化に努めている。



FOEASほ場での大豆刈り取り風景

② 機械・施設の導入・整備

農作業を省力化し、少人数体制で取り組むことを目標に掲げている本営農組合では、全自動運転機能や、収穫しながら収量、水分値、タンパク値を測定出来る最新のコンバインを導入し、各種データをほ場毎管理し、ICT化に取り組んでいる。



水田で栽培した落花生を積み上げた「らっかぼっち」

③ その他

本営農組合では、苗箱数を減らす水稻の「密苗」移植栽培による低コスト・省力化に取り組んでいる他、ちばエコ米の生産、アイガモによる水稻の無農薬栽培にも取り組んでおり、大手スーパーに出荷・販売している。

事業概要

事業種：国営かんがい排水事業

関係市：香取市、茂原市、東金市外4市6町1村

受益面積：17,970ha

事業期間：平成5年度～平成26年度

事業目的：用水改良、排水改良

主要工事：頭首工1カ所、水門1カ所、揚水機場5カ所、排水機場1カ所、用水路L=89km、排水路L=6km

位置図（千葉県）



両総地区

<問い合わせ先>

関東農政局

農村振興部農地整備課

電話：048-600-0600

(内線3537)

(令和元年度調査時点)